

参加作家： やなぎみわ、宇治野宗輝、金氏徹平、久保田弘成、名和晃平、ヤノベケンジ

会期： 2016年9月2日[金]～19日[月・祝] 金・土・日・祝のみ

開場時間： 12:00～18:00 (最終日は17:00まで)

会場： MASK [MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA] 大阪市住之江区北加賀屋5-4-48

主催/企画： 一般財団法人 おおさか創造千島財団

企画協力： 木ノ下智恵子

対話型プログラム監修： 京都造形芸術大学アートプロデュース学科、アート・コミュニケーション研究センター

助成： 芸術文化振興基金、大阪市、公益財団法人 朝日新聞文化財団

協賛： 株式会社ハートス

協力： KAAT神奈川芸術劇場、京都造形芸術大学ULTRA FACTORY、SANDWICH、YAMAMOTO GENDAI、一本松海運株式会社

後援： 歴史街道推進協議会

## MASK 収蔵作品関連パフォーマンス

### 野外劇「日輪の翼」大阪公演

【日時】 9月2日(金)、3日(土)、4日(日) 18:30～

【会場】 名村造船所大阪工場跡地 クリエイティブセンター大阪

【入場料】 前売 3,000 円／

当日 3,500 円 [全席自由]

## クロージングイベント

やなぎみわトーク「花鳥虹との道ゆき」

【日時】 9月19日(月・祝) 15:00～17:00 (予定)

【会場】 MASK [MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA]

【入場料】 無料

## 芸術の超越力の試行：第二章

### 彼方へ飛翔する《花鳥虹》の魔力

湾岸の工業地帯を舞台にした「芸術の超越力の試行：第二章」

は、大輪の夏芙蓉の花を抱く舞台車《花鳥虹》を主役に迎える。

舞台トレーラーの持ち主である、やなぎみわは、均質的な美しさを保つ若い女性達とCGで加工した風景を共存させた

「Elevator Girl」、公募した他者が空想する半世紀後の老女像

を再現した「My Grandmothers」、グリム童話のような残酷さを秘めた少女と老婆が登場する「Fairy Tale」といった、一連の写真作品シリーズで世界的に活躍する“美術家”である。やなぎの美術作品は、日常空間を異化的演劇空間に変容させ、被写体を演出的手法によって一種の物語のワンシーンを創り出し、写真や映像化したものである。近年では主に演劇作品に取り組んできたが、これは美術作品の延長線上にある展開というよりも、やなぎの制作意欲の根幹に辿り着いた結果という見解が妥当だろう。

ラテン語で“暗い部屋”を意味するカメラオプスキュラの原理から派生した光学装置を用いて像を定着させる写真表現と、照明という光で演者を照らし出す演劇表現。この似て非なる表現性を追求し、積層型の制作物を収集・保存・展示する美術館≒ホワイトキューブと、俳優などの流動体の総合を時限付きで上演する劇場≒ブラックボックスの、二つの環境と格闘するやなぎが、満を持して舞台車という稀な劇場主になったのだ。

「移動舞台車」は台湾製であり、本国ではカラオケショーや祭りなどで出動する動く屋外公民館やデコトラ屋台のようなものだという。やなぎに、この異国の装置を日本に招聘する決意をさせたのは、中上健次の小説『日輪の翼』である。物語は熊野の路地の立ち退きを機に七人の老婆と若者が冷凍トレーラーに乗って、伊勢、一宮、諏訪、瀬田、恐山、皇居へめぐる。地縁血縁の業を纏い、トレーラーで路地の物語を運ぶ老婆の道行と、耽美的に性とタブーを謳歌する男衆らの営みが交差する巡歴録である。この中上の物語さながらに、台湾で生まれた舞台車《花鳥虹》は、京都・東北・熊野などで装飾され、日本各地を巡る旅公演の母体となり、様々な物語や情景を生み続けている。

そして、その母体が帰還するドックは、中上小説にも登場する日本の近代化を支えてきた肉体労働の熱気や工場音が日常にあり、やなぎの舞台車と同種のユニック車やクレーンなどの重機、土木建築資材が付む、重厚長大産業の歴史を物語る地帯である。この母港では、本年始動した旅公演から凱旋する《花鳥虹》が造船所跡地の風景を借景に“翼”を広げ、抗菌・漂白・無味・消臭の価値観によって鈍化した“私たち”を揺さぶる魅惑の出来事が繰り広げられる。

さらに加えて、多数で興するカタルシスの別所では、やなぎが演劇制作の傍で取り組んできた、3.11以後の福島におけるプロジェクトの一端を初披露する。展示作品《黄泉平坂(川中島)》は、かつての桃源郷が仄暗い闇によって隠蔽されてしまった“現代の路地”を、やなぎが手探りで見つけ出し、存在を照らして審らかにするかのよう…。無用なタブーを打破する雄志を糧に「見ることの倫理」\*を駆使し、異質なものをつなぎ合わせる“やなぎの魔力”が、“私たち”にもたらず内なる飛躍を感じていただきたい。

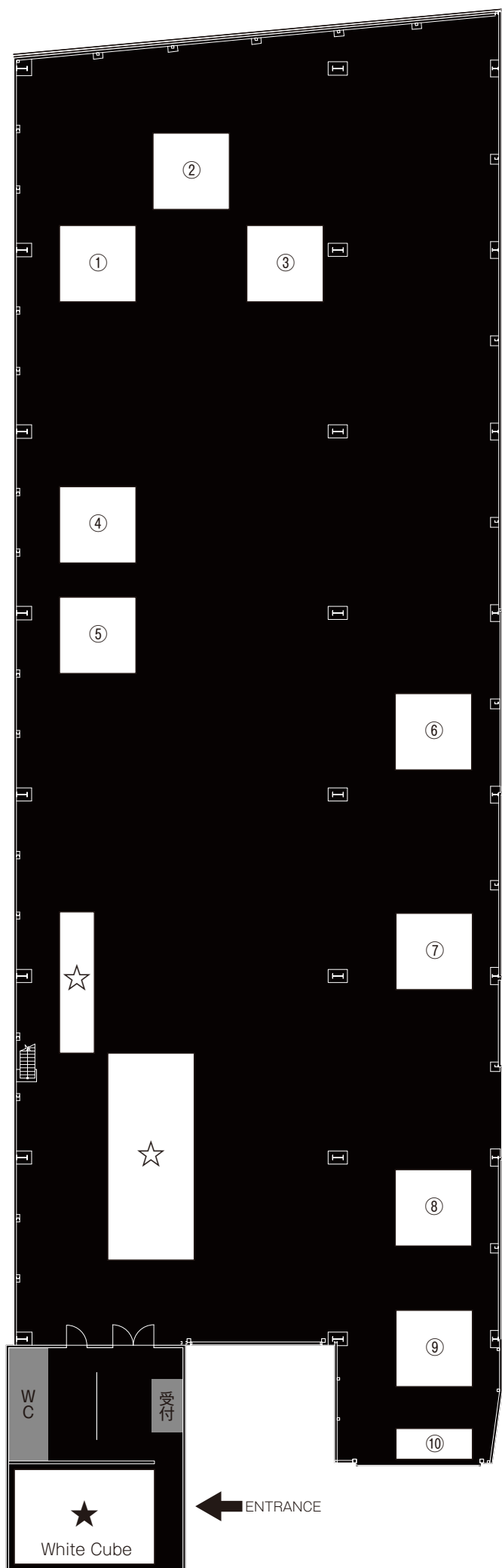
木ノ下智恵子 (本企画キュレーター)

\*アメリカの作家スーザン・ソントグの著書「写真論」の一節

一般財団法人 おおさか創造千島財団 創立5周年記念事業

— 見せる収蔵庫 —

MAASH Open Storage 2016



## 展示作品一覧

### やなぎみわ

☆《『日輪の翼』上演のための移動舞台車》 2014  
1,021×652×1,129cm(展開時) ※9月9～11日、16～19日のみ会場展示

ドキュメンタリー映像展示  
《花鳥虹 記録2016》 2016  
構成・撮影・編集・音声：三谷正

### ★ White Cube

よもつひらさか  
《黄泉平坂(川中島)》 2016  
デジタルプリント 160×285cm(3点)

### ヤノベケンジ

- ① 《ラッキードラゴン》 2009  
アルミニウム、FRP、他 1,000×450×1,530cm
- ② 《ジャイアント・トラヤン》 2005  
アルミニウム、鉄、真鍮、FRP、発泡スチロール 720×460×310cm
- ③ 《サン・チャイルド》 2011  
FRP、鉄、ネオン、他 620×444×263cm

### 宇治野宗輝

- ④ 《THE BALLAD OF EXTENDED BACKYARD, THE HOUSE》 2015  
家電機器、木、鉄、ミクストメディア 400×800×700cm(展開時)  
建築設計:dot architects、片岡慎策  
※2015年10月MASKにて滞在制作
- ⑤ 《THE BALLAD OF EXTENDED BACKYARD(Car Section)》 2010～2013  
木製家具、家電機器、他 サイズ可変

### 久保田弘成

- ⑥ 《大阪廻船》 2013  
プレジャーボート、鉄、エンジン、ステッカー 400×380×550cm

### 名和晃平

- ⑦ 《N響スペクタクル・コンサート「Tale of the Phoenix」舞台セット》 2015  
ミクストメディア サイズ可変

### 金氏徹平

- ⑧ 《Splash&Flake(Pipeline/Kitakagaya)》 2014  
Wood, Plastic and Steel Found Objects サイズ可変  
※2014年11月MASKにて滞在制作
- ⑨ 《Greenhouse for something》 2010  
ミクストメディア 201×174×103cm
- ⑩ 《Games,Dance and the Constructions(Color Plywood)#1》 2015  
スクリーン・プリント、木 800×120×3.5cm